
WOLI・JISWA合同 ワークライフ研修・公開カンファレンス **レポート**

オリエンテーション

概要

日時 2019年1月15日 19:00～

場所 産業ソーシャルワーカー協会

内容 働く人を取り巻く課題を持ち寄り話し合うことで、今年の大きな産業ソーシャルワークのテーマを見つけていきます。



1, 2020年の働く人を取り巻く大きなテーマとその役割について

産業界を含め、いま世の中では何がキーワードとなっているか。この一年をとおして頭の隅に入れるべきキーワードを探したいと思います。

今後しばらく問題・流行となりそうなテーマについて、当日参加された皆様一人一人にキーワードを挙げていただきました。

今後の産業ソーシャルワーカーの活動にも応用していきたいと思います。

「ピア」

福祉業界ではピアサポーターが少しずつ職場に入ってきている。

精神疾患の分野に多いイメージだが、他の分野でも健康に留意した働き方が広まっていると感じる。

「同一賃金同一労働」

人事の中でのトレンドとして、今年の4月から施行される「同一賃金同一労働」がある。

非正規雇用が増えたり、今後いろいろな働き方が増えていく中で整備されてきたと思う。

企業としてはマネジメント層の負荷が高くなっていくと考えられる。産業SWとしてはマネジメント層をいかにフォローできるかがポイントとなる。

「削減」

制約、減ることなど、あまりいいイメージはないかもしれないが、マイナスのイメージから新しいことが生まれることもある。

日本の人口は少なくなってきたが、そこから新しいものが出てきているとも感じる。

「さとり世代」

ゆとり世代が終わり、新たな世代が出てきた。自分たちの世代と比べると、打たれ弱いイメージのあるこの世代を、これからどうマネジメントしていくか考える必要がある。

「ティール組織」

ティール組織とは、ヒエラルキーのない、フラットな組織で、働く人々が自由な分、自己責任の部分が大きい組織のこと。産業ソーシャルワーカーを広めていくためには、このティール組織のような新しい組織としてのあり方が必要になっていくと考える。

「個人情報」

世界的に発達しはじめているAIの登用を実現していくためには、膨大な情報が必要となる。よって個人情報取扱ルールを、会社の一部の人たちだけではなく、社員一人ひとりが理解するようにしていく必要がある。

「情報」「人権」

情報はより良くもより悪くも使えることで、何をどこまでするか線引が難しい。

それを管理するシステムも含めて課題として認識している。

もうひとつ気になっているキーワードとして「人権」を挙げたいと思います。

「人材の多様性」「マネジメント改革」

今後、外国人や高齢者、女性、AIといった多様な人材を雇用していくことになる。そしてそのしわ寄せがきているのはマネジメントをしなくてはならない中間管理職である。多様な人材を活用しながら、マネジメントの改革もしていかなければならない。

「不安」

オリンピックが終わってどうなるのか、気象がおかしくなっていることや、キャッシュレスなどの様々な変化がある中で、いろいろ所から不安が出てきていると感じている。

「組織社会化」

環境に適用しようと努力していくというのはかつては新入社員だけが感じる不安であったが、これから先は企業も同じような努力をしていかなければならない。そして企業の中にいる社員たちは今後、自分を保ちながら判断をする能力が求められていくだろう。

「ダイバーシティ&インクルージョン」

雇用率がどんどん上がっており、これからも上がっていくと言われている。しかし雇用するだけでなく、雇った社員のキャリアを考えていくことも企業にとって重要な課題になっていくだろう。

「自立」

どこの企業に行っても同じ仕事で働けるようにすること、自分をブラッシュアップしていくことが今後すごく重要になってくるだろう。自分の選択肢を増やすという意味でも自立していくことは重要だ。

「支援者支援」

支援者の方々を支援することが、相談者への支援につながる。支援者への支援、たとえば子どもの問題の場合はお母さんの支援、会社の場合はマネージャーや管理職の方を後ろから支えるといった、支援者支援が必要だと考える。

「デジタルトランスフォーメーション（DX）」 「SDGs」

「5G減税」に取り組まないとGAFに職場を奪われてしまうのではないか。また、誰一人取り残さない社会を作っていくということが世界でも重要になってきている。

「介護離職」

誰もがいずれ経験する問題なのだが、支援をする中で、キーパーソンと年齢が近くなってきており、他人事ではなくなっている。もし自分の両親に介護が必要になった時のために今のうちから考えていかなければならない。

2,次回おしらせ

2月以降のイベントにつきましては、今後開催頻度等が変わる予定で現在調整中です。2月下旬以降にホームページ及びメールにてご案内させていただきます。